

と、季昌^{すえまさ}は立ちあがりました。そのとき、もう寝たとばかり思っていたモトがとびこんできて、

「お父さま、行かないでー。どこにもいかないで、家にいてください。おねがいです。」

と、泣きながら、父にすがりつきました。娘にすがられて、どうしようもなくなつた季昌は、大きなためいきとともに、

「いかない。いかないよ。どこへもいかないよ。」

と、娘をしつかり抱^だいて、ほおずりするのです。一応^{いちおう}その夜はおさまつたものの季昌のキリスト教反対の考えは変わりませんでした。

翌日^{よくじつ}になつて、モトは、

「お母さま、キリスト教を信ずるのはやめてください。さもないと、父上に殺されてしまいます。」